

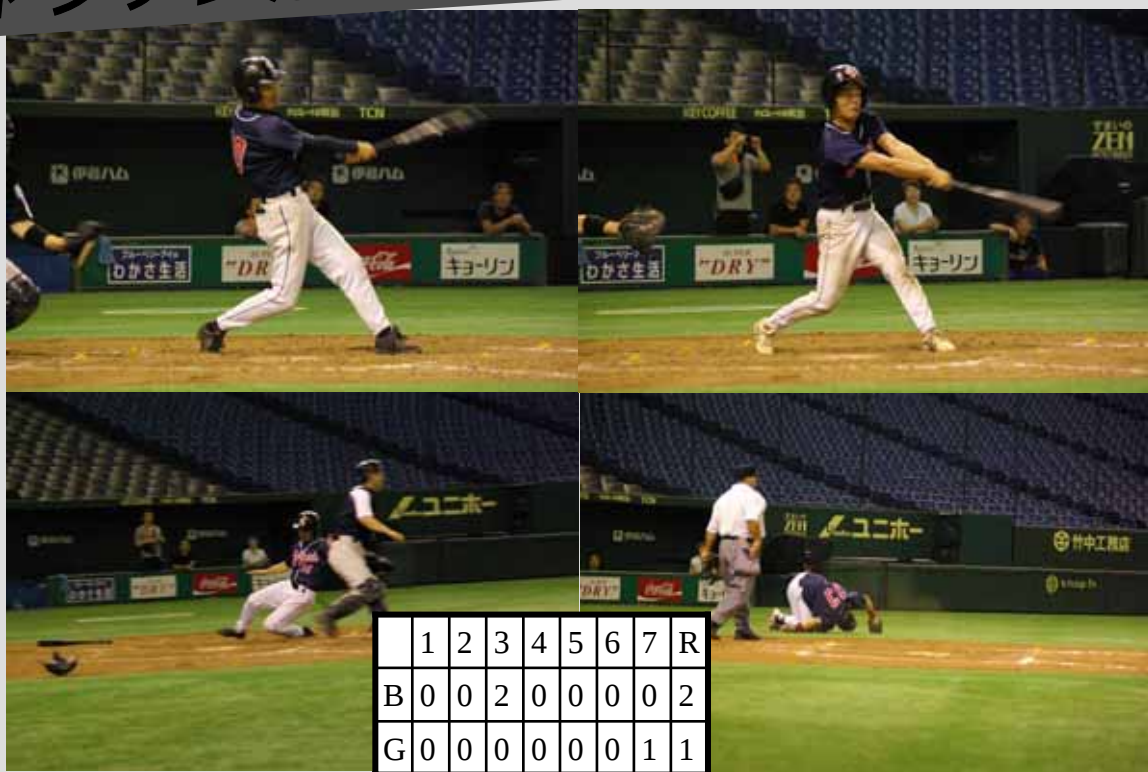
ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第26号 平成21年 9月 6日

キャプテンの采配、キラリと光る、勝敗の差は紙一重

キャプテンが見せた一振りの芸術！



早いもので、暦は9月。その9月に入った初戦は、東京ドームでのKUSA-1大会へのエントリーであった。今日の参加メンバーは、総勢17名、ドーム経験者が8人、新規参加が9人と最近のチーム様変わり、この数でも判断出来るものである。ドーム初エントリーの時の高揚した気持ちは、今でも私は忘れないが、今日デビューしたメンバーもその気持ちに変わりは無いであろう。その最たる証が、控え室でパンツを脱いだ梶原の足には、痛々しい包帯の姿も発見した。その満身創痍の状態でも、ドームが気持ちを奮い立たせ、その積極プレーを引き出したのであろう。「やる気は気力を引きだす」、梶原のプレーはまさにその言葉とおりのプレーであった。それから、やはり今日目を見張ったのが、キャプテンの采配である。9人のポジションに対して、総勢16名を、ゲームを壊さずに、使い切った、その采配はお見事そのものである。ゲームの方は、時折折れる先発@達脇であったが、要所を締めるピッチングを続けた。しかし、3回の攻撃、いつものなら捕れる遊撃ゴロ・三塁ゴロを安打にされ、ノーアウト1、2塁。いつもなら、ずるずる行ってしまいそうな場面を、達脇が2連続三振とし、2アウト、次打者の打球は、打ち損じの1塁ゴロ、と思った瞬間、一塁の前で、ボールが回転による、変化で、外野まで転々といった。その間に、ベースランナー2人がホームインし、2点を献上してしまった。しかし、以降7回まで、達脇が踏ん張り、最大の見せ場は、采配に演出をしたキャプテンに回ってきた。この回先頭の哲也が、内野安打で出塁し、続く浅沼、スタート良く盗塁を試みたが、呼吸の悪さで、初球を浅沼があっさり二飛、ランナーバックで、キャプテンが、「代打俺!」。集中し、打席に入った初球を見事、1、2塁間安打を放った。再度盗塁を試みた哲也との息があり、結果、ヒット&ランの形になり、1アウト、1、3塁と同点のチャンスが訪れた。バッターは山田、空を切るバットが2回続いた3球目、打球はセンターへ、先の試合で、タッチアップ失敗を経験した、3塁ランナー哲也、今日は、きっちり、走塁を決め、1点差、政司を迎え入れれば、同点だけに、次打者の泉にベンチからの視線・声は送られた。しかし、今期不振に喘ぐ、泉のバットを空を切り、ゲームセットとなった。それにしても相手投手は良い投手。12与三振は今期最多かも？